

動物の診察室から

○ 51 ○

ある日の夕方、私は新潟へ向かう新幹線の中で、パソコンのモニターを見ながら、これから行う手術のことを考えていました。

1カ月ほど前に、1頭のチワワが診察に来ました。その子はどこか触るととても痛がるということでした。検査の結果は第1頸椎(頸椎)と第2頸椎との間がずれてしまっ

た。その子の頸椎は形成が悪く、近い将来立てなくなると思われました。

治療は外科的手術で、第1頸椎と第2頸椎に腹側から数本のピンを打ち込みそれを外科用骨セメントで固めてしまう方法がよいとされています。しかし、この手術は非常に難易度は高い手術で



おちゃめな顔のふんた君

す。昨年、全く立てなくなったパピヨンにこの手術を行い、立つことができようになりましたが、非常に難しい手術でした。この手術の際、パピヨンの体重は3キログラムありましたが、今回のチワワは体重1・5キログラムでも小さく、私はこの小さなチワワの手

術をうまく成功させる自信はありませんでした。このチワワの手術を行うのは、獣医科大学の外科と、一部の整形外科の専門医です。飼い主の方は外科手術を希望されましたので、早速、東京都武蔵野市の日本獣医生命科学大学動物医療セン

ンを打ち込むため、角度が正確ではないと、血管や神経を痛めてしまいます。別の整形外科の先生も、正しい角度さえ間違わなければ、絶対に大丈夫です。と、アドバイスをしてくれました。

飼い犬が歩けるように

難しい頸椎手術

術をうまく成功させる自信はありませんでした。

チワワの手術が近づいたある日曜日のこと。今

度は、全く立てなく首も持ち上げることができないシーソーの「ふんた君」が来院されました。ふんた君は検査の結果、頸椎不安定症で手術が必要でした。それも、ふんた君は完全な四肢麻痺になっ

た。この手術は頸椎にピンを打ち込むため、角度が正確ではないと、血管や神経を痛めてしまいます。別の整形外科の先生も、正しい角度さえ間違わなければ、絶対に大丈夫です。と、アドバイスをしてくれました。

このチワワの手術を行うのは、獣医科大学の外科と、一部の整形外科の専門医です。飼い主の方は外科手術を希望されましたので、早速、東京都武蔵野市の日本獣医生命科学大学動物医療セン

ンに来院されました。ふんた君は検査の結果、頸椎不安定症で手術が必要でした。それも、ふんた君は完全な四肢麻痺になっ

た。この手術は頸椎にピンを打ち込むため、角度が正確ではないと、血管や神経を痛めてしまいます。別の整形外科の先生も、正しい角度さえ間違わなければ、絶対に大丈夫です。と、アドバイスをしてくれました。

た。この手術は頸椎にピンを打ち込むため、角度が正確ではないと、血管や神経を痛めてしまいます。別の整形外科の先生も、正しい角度さえ間違わなければ、絶対に大丈夫です。と、アドバイスをしてくれました。

た。この手術は頸椎にピンを打ち込むため、角度が正確ではないと、血管や神経を痛めてしまいます。別の整形外科の先生も、正しい角度さえ間違わなければ、絶対に大丈夫です。と、アドバイスをしてくれました。

た。この手術は頸椎にピンを打ち込むため、角度が正確ではないと、血管や神経を痛めてしまいます。別の整形外科の先生も、正しい角度さえ間違わなければ、絶対に大丈夫です。と、アドバイスをしてくれました。

た。この手術は頸椎にピンを打ち込むため、角度が正確ではないと、血管や神経を痛めてしまいます。別の整形外科の先生も、正しい角度さえ間違わなければ、絶対に大丈夫です。と、アドバイスをしてくれました。

た。この手術は頸椎にピンを打ち込むため、角度が正確ではないと、血管や神経を痛めてしまいます。別の整形外科の先生も、正しい角度さえ間違わなければ、絶対に大丈夫です。と、アドバイスをしてくれました。